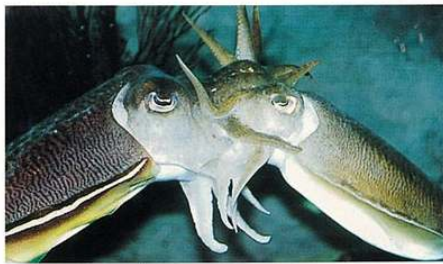
シーワールドのアニマル達

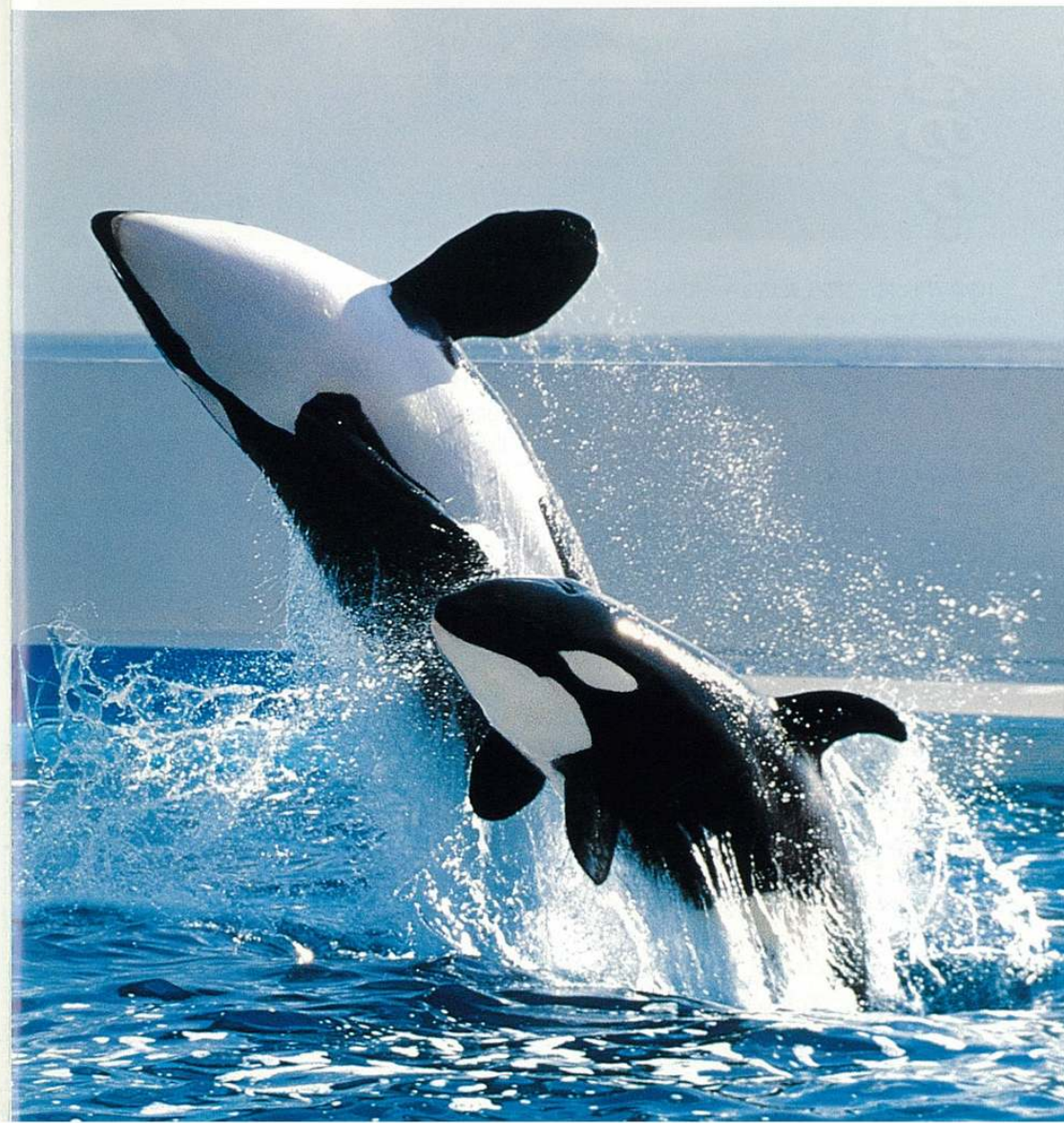
●ヘダイ

当館にいるヘダイは現在飼育期間が24年目を迎え、水族館での長寿記録を更新中です。日本の水族館では過去に15年の飼育記録（東海大学海洋科学博物館）が残っています。当館のヘダイは1976年の10月に鴨川近くの行川漁港で採集され、当館へ搬入された時は全長約10cmの大きさで、その年の春から夏頃に生まれたものと思われました。このヘダイは、同じタイ科のマダイやチダイをはじめ、タイと名前がつくイシダイ，イシガキダイ，ヒゲダイ，タカノハダイなどといっしょの展示水槽で元気に過ごしています。エサの時間になると、ヘダイは自分より鴨川シーワールドでは後輩になるスタッフのところへいち早くやってきて、スタッフのそばから離れようとしません。魚，イカの切り身やエビなどさまざまなエサをもらいますが、好き嫌いなく何でも食べ、元気なところを見せてくれます。現在、全長が40cm程に成長していて、水槽の中では、自分の泳ぐ道をきめているかのようにガラス面の前と水槽の奥を行ったり来たりしていますので、ぜひ探してみて下さい。自然界でのタイ科の仲間は寿命が約50年と言われていて、当館のヘダイにも50年以上を目指して長生きしてもらいたいと思っています。（成田）

▲ヘダイ *Sparus sarba*

●コウイカ

コウイカは東京湾より西の海に棲み、その名が示すように体の中に舟型の殻（甲）を持っています。また別名「スミイカ」とも呼ばれ、多量のスミを吐くことも特徴の一つです。当館の水槽の中でもオス同士がメスをめぐってケンカをしたり、物音に驚いてスミを吐き、水槽の中を真っ黒にしてしまうことがあります。そのため飼育係は一日に何回もコウイカの水槽をチェックして、もしスミを吐いていればすぐに水を取り替えなければなりません。コウイカはふだんは水槽の底で静止しているかゆっくりと泳いでいるかのいずれかですが、春の恋の季節になると水槽の中でもオスとメスはペアになって泳ぐことが多くなり、時には互いの腕をからませての交接行動を見ることがあります。やがて交接が終るとメスは腕で水槽の底に敷いてある砂を器用にすくい取って卵一粒づつにていねいに付着させます。他の捕食者に卵が食べられないように砂でカモフラージュを施すと、水中に沈めたヤギや木の枝などに卵を一粒づつ産み付けていきます。親イカは産卵後死亡しますが、産み付けられた卵は水温20℃前後で約40日すると中から甲長5mmほどの子供がフ化してきます。来年の春もまたすばらしい恋の季節の姿を見せてくれることを楽しみに、生まれた子イカを大切に飼育し、成長を見守って行きたいと思います。（ハツ木）

▲コウイカ *Sepia esculenta*

さかまた No.53 （禁無断転載）

編集・発行 鴨川シーワールド

〒296-0041 千葉県鴨川市東町 1464－18

☎(0470)92−2121

発行日 平成11年7月

さかまた

鴨川シーワールド NO.53

どっちが見ているの？

ガラス越しに遊ぶ動物たち

▲セイウチの「タック」

昨年7月にオープンしたロッキーワールドやシャチの居るオーシャンスタジアムで、ガラス越しに水の中の動物たちと遊ぶことがシーワールドでのひと味違った楽しみ方となっています。決められた時間に行うパフォーマンスとは異なり、遊べるのは「いつ」とは言えませんがそんな動物たちの遊びにもいくつかの法則があるようです。動物がのぞいているのか、ヒトがのぞいているのか分からない－そんな遊びとふれあいのポイントをご紹介しましょう。

セイウチのタック

お父さんのタックは、泳いでいることが多く見られます。泳いでいるタックとガラス越しに目が合ったり、タックが何か珍しいもの、例えば「おもちゃ」や「バッグ」などを見つけるとガラスにピタッと顔をつけてきます。ところがタックの興味を引く珍しいものがなくても積極的に遊びに来るのが、赤ちゃんや小さなお子さん達です。どうも波長が合うらしく、ガラスにヒゲづらをくっつけて、愛嬌をふりまきます。ガラスに顔をつけるようにして「タック！」と呼んでみて下さい。タックもガラスに小さな耳をくっつけて呼び声を聞き、口から大きなアワを出しながら、「ブワァー」と返事をしてくれるかも知れません。その姿が気持ち悪く夢に出てきそうと立ち去る人、なんとおもしろい動物!!とファンになる人、反応は真っぷたつに分かれるようです。また、2才になったキックはお母さんのムックに甘えて陸上でお乳を呑んだり昼寝をしていることが多いのですが、もし泳いでいるキックを見つけたら、水中のセイウチが見える3つのガラス窓ごしにキックとかくれんぼをしてみて下さい。「鬼」はキックの役です。

▲「ブワァ～」

カリフォルニアアシカのトゥウィル

トゥウィルは3頭の子を無事に育てたお母さんで普段はおとなしいアシカです。ところが最近セイウチに負けじとガラス越しに遊ぶことを覚えました。ロッキースタジアム地下のガラス越しに動物たちの写真を撮るのは、動きが早いので難しいのですが、その点トゥウィルはじーっと動かずにのぞいているので一緒に記念撮影をする家族連れをよく見かけます。おとなしそうなトゥウィルの姿にガラス越しに口の前に手を出すと、急に大きく口を開けてお客様をびっくりさせる得意技も持っています。思わず手をひっこめる姿が面白いのでしょうね。

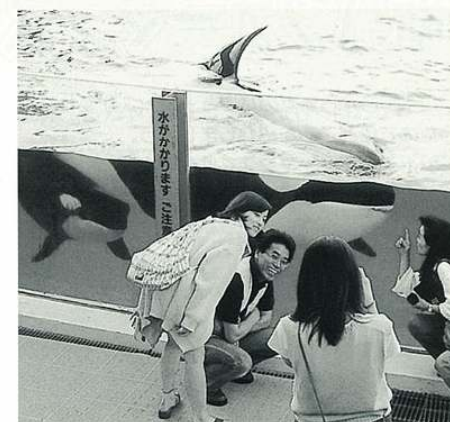
▲さかさまの姿で失礼！

トドのルイ・レイ・モリー

ヤンママ（？）のルイ、その娘レイ、おてんばモリーは、観覧窓の隣にある売店のお姉さんや、商品のぬいぐるみと遊ぶのが大好きです。一頭がガラス越しにのぞいていると「なになに？」とでも言いたげにやって来ます。彼女達のお気に入りはペンギンやアザラシのぬいぐるみです。大きな目をくりくりと動かしてじっと見つめています。

▲ぬいぐるみに興味を示す「レイ」

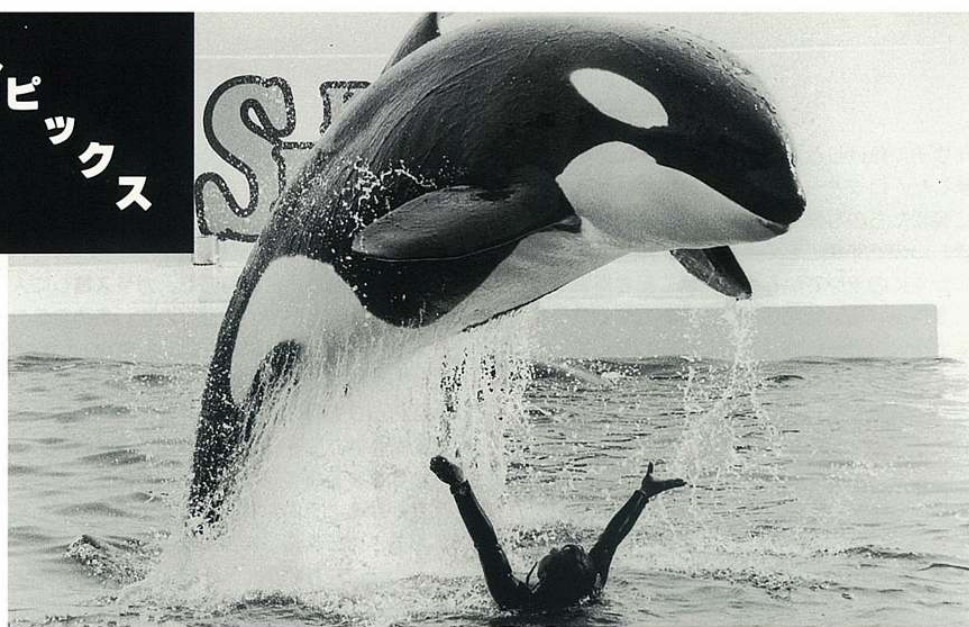
シャチのステラとラビー

ステラの遊び好きは有名で、ガラス越しに人とかくれんぼをしてよく遊びます。このステラとの遊びを楽しみに来園されるお客様もいらっしゃる程です。母親に似てステラの子「ラビー」もこの遊びを覚え、親子で一緒に遊びます。またステラはパフォーマンス中にガラス越しに目標となるお客様を見つけ、そのお客様にわざと水がかかるようにジャンプするのです。そして着水後、ガラス越しにジロッと見てからトレーナーの元に戻ります。ステラのこの遊びの始まりはちょっと予想ができません。ステラにはご用心…。

▲「ステラ」と「ラビー」はサービス満点！

このように動物たちが自らふれあいを求めて私たちヒトに近寄って来る姿はゆかいで楽しいものです。水の中から見つめる表情や仕草にきっと新しい発見があることでしょう。

この動物とのふれあいのポイントは、たとえばシャチのパフォーマンス中は、隣のロッキーワールドは比較的すいており、そのようにガラス越しにヒトがあまり居ない時がねらいめ！－動物たちの注目を得るチャンスです。ぜひトライしてみて下さい。

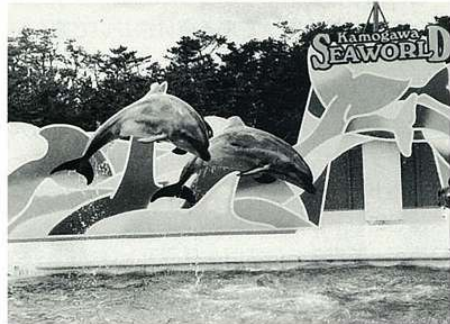
勝俣悦

トピックス

▲シャチとの共演「シンクロ・アクション」

新パフォーマンス・オープン

3月20日から海獣のパフォーマンスが変わりましたので見どころを紹介しましょう。

シャチパフォーマンスではダイナミックなジャンプに加え、「シンクロ・アクション」と名付けた水面で繰り広げられる、トレーナーとシャチの共演が見逃せません。赤ちゃんラビーのかわいいジャンプのおまけがつくこともあります。

イルカパフォーマンスはスピード感あふれるジャンプが中心です。ご存じ、イルカのコーラス「三々七拍子」は、「イルカの歌」に変わりトレーナーもイルカと一緒に美声？を披露しています。また、シーワールド生まれのバンドウイルカの子ども「カリス」と「オリノ」もそろってパフォーマンスにデビューしています。

▲みんなでがんばろう

▲ジャンプする「オリノ」と「カリス」

アシカパフォーマンスは、「ロッキーワールドの素晴らしき家族」と題し、ちょうど1年前に新天地を求めて「ロッキーワールド」へ引っ越してきた開拓民一家のその後の生活がテーマです。アシカ達が繰り広げるユーモラスなアクションが笑いを誘っています。

ベルーガパフォーマンスでは、ベルーガをとおしてエコーロケーションをはじめ、イルカのもっている様々な水中適応能力を紹介しています。人の言葉を聞き分ける？「とうりつ」が新しい言葉として加わりました。

それぞれに特徴のある4つのパフォーマンスをお楽しみ下さい。

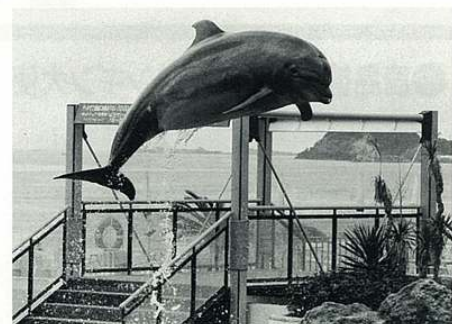
伊　藤

バンドウイルカの「スリム」 飼育日数 一万日達成

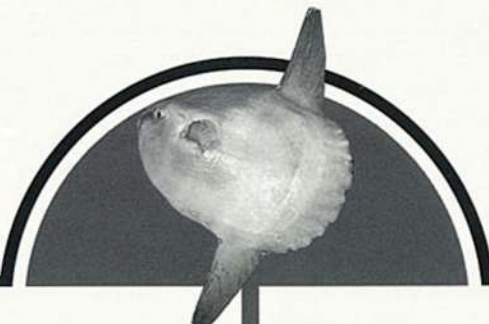
▲横顔も素敵、肝っ玉母さん！「スリム」

バンドウイルカの飼育記録日本一を更新中の「スリム」（メス・推定年齢33歳）が、4月4日に飼育10,000日（27年4ヶ月）を達成しました。「スリム」は、当館がオープンした翌年昭和46年11月に静岡県伊東市より搬入され、体形がほっそりとしていることから「スリム」と名付けられましたが、今では体長294cm、体重336kgとドッシリとした立派な体格になりました。

▲水中観察窓から見る「スリム」

昭和47年よりイルカパフォーマンスのスターとして活躍し、高さ6メートルのハイジャンプや体をひねりながらのスピンジャンプなど、数々の妙技でお客様の人気を集めていました。しかし一方では、活発で気の強い性格のため、しばしば新人トレーナーをこまらせることもあり、他のイルカやトレーナーからも一目おかれる存在でした。

▲お腹が目立つようになり、出産が楽しみ

「スリム」は6頭の子供を出産した経験があり肝っ玉母さんぶりの育児は、理想的な母親として他の母親イルカのお手本になっています。現在は、昨年オープンしたロッキーワールドの「イルカの海」で生活していて、7頭目の子供を妊娠中で、今年の8～9月に出産を予定しています。近い将来、スリムファミリーでイルカパフォーマンスができたら素晴らしいですね。

井上聡

●秋篠宮殿下御一家　御来園

4月27日、秋篠宮殿下御一家が鴨川シーワールドに御来園されました。前日までの雨もあがり、各パフォーマンスをはじめ、イルカやベルーガとのふれあいを楽しまれ、シャチからはキスのプレゼントをおうけになりました。また、昨年オープンした「ロッキーワールド」は、ことのほかごゆっくりと御覧になりました。約5時間の御滞在でしたが、眞子様、佳子様の愛らしい笑顔と、おやさしい殿下、妃殿下のご様子は、お迎えさせていただいた私たち職員はもとより、多くの入園客にも感激を与えて下さいました。

勝俣浩

●ラビー便り

シャチの赤ちゃん「ラビー」は生まれてから1年5ヵ月が過ぎ離乳期を迎えお乳の他に1日に17kgの餌を食べるようになりました。生まれた時は2m程だった体長も今では3m30cmにもなり順調に成長していることから訓練も少しずつ始めています。いつも母親ステラの隣で真似をしていたので物覚えが早く、トレーナーと一緒に回転をしたり、胸ビレを振ったりすることもできるようになりました。パフォーマンス中も他のシャチがジャンプをしていると、一人前に軽快なジャンプを見せてくれます。ラビーはまだ乳離れをしていないので母親ステラから無理に引き離さず遊びの中で、じっくりと色々な動作を教えていきたいと思います。

石　川

●鹿島槍スキー場へペンギン大使

長野県大町市のサンアルピナ鹿島槍スキー場で、11月30日に行われたスキー場開きに当館からオウサマペンギン3羽、ジェンツーペンギン2羽が参加しました。ペンギンの参加は今回が5度目で、ペンギンと記念写真やペンギンタッチ、スキー場内行進を行いました。今回参加したペンギンの中には毎年参加しているペンギンもいて、一面の雪の中を慣れた様子で堂々と行進する姿も見られました。お客様には特にペンギンタッチが好評で、子供から大人までたくさんの人が大喜びでした。大町市の子供達にとって、ペンギンはめずらしかった様でとても良い記念になったと思います。

勝　間

●トロピカルワールド起工

昨年7月、アシカアザラシ達の新居ロッキーワールドのオープンに伴い、旧アシカショープールやピノキオハウス等が取り壊され、11月には第2期計画の新施設「トロピカルワールド」の起工式が行われました。トロピカルワールドは、北西太平洋のギルバート諸島にある、最も美しいサンゴ環礁、タラワ、マキンをモデルにした、世界に類を見ない展示施設です。サンゴ礁の代表的景観をできる限り忠実に再現することを目指していて、水中情景はもとより、穏やかで眩しい浜辺や、エメラルドグリーンに輝く海面などを再現します。展示施設の他にも、ギフトショップやレストランなどもあり、お客様に快適な非日常空間を提供します。トロピカルワールドのオープンは2000年7月の予定です。ご期待下さい。

岡　田